

安全・安心を感じる情報が共有できず、 恐怖だけは先に先に共有をしまっている



山本啓介 × 6月定例議会

平成23年長崎県議会6月定例会 7月4日、下条議員の質問に関連し、
原発に対して5分間の関連質問を知事に行いました。

関連質問

○山本議員

自民党・清風会の山本啓介でございます。吉野市選出です。

下条議員の質問に関連して、原発について質問をしたいと思っております。

私の地元の吉野市も、海を隔てて25キロで玄海原発に達すると確認されています。皆様方が非常に不安を感じているのはやはり安全・安心を感じる情報というものがなかなか共有できないまでも、恐怖だけは先に先に共有をしまっているという状況が続いています。

先ほど、下条議員の「EPZの見直しについての質問の際、知事の方から見直しという言葉に当然「拡大」も含まれてあるんだと思うのですが、明確に「拡大」という言葉がなかったものですか、吉野市からもそういう要望が出ておりますので、その点について再度ご認識を確認させていただきたいということ、この吉野市も含めその他平戸市、佐世保市、松浦市を含む県内の隣接市に対しての今後の説明責任、国の責任のもとにおいて行っていくということでしたが、いま一度その認識をお聞きしたいと思います。

○知事

EPZの見直しについては、これはやはり現在10キロメートルと定めていますけれども、今回の福島原子力発電所の事故等を見た場合にどこまで拡大するかというのはこれは専門的な検討が必要であるうと思えますし、また単純にコンパスで丸く円をかくのではなく、それぞれの地形、気象要因等を十分精査して判断をいただきたいという要望を行っているところであり、

当然ながら拡大を念頭に要請を行っているところであります。

それからまた、20キロメートル、30キロメートルという形になると、県内自治体の中にも平戸市、佐世保市、吉野市が新たに加わりますので、これまでも情報の共有化に努めてきたところでありますが、これからのいよいよ県の防災計画の見直し等も進めないといけない。共同して取り組みたいと考えています。

○山本議員

今おっしゃったとおり、まさしくコンパスで同心円をかくには、東北のことは見ていけば、それだけでは止まらない被害があるということも簡単には想像ができるという認識を深めて要望を伝えていただきたいと思っております。

そして、先ほどから知事は答弁の中で、1日目もそうでしたが、議長とともに、国に原発の再稼働前に県民に説明することを要望されたということですが、県選出の国会議員の方々にもされたのかと思っておりますが、その方々の認識というものはどうだったか。もしおわかりであれば、そのお答えを聞かせていただきたいと思っております。

○危機管理監

私の方も一緒に参りましたけれども、玄海原子力発電所に対して、松浦市民が非常に不安感を抱えておられるということについては、お会いした国会議員皆さん、危機意識は持っていたらいいと思っております。地図を見ていただきまして、それで、海を隔てて遮蔽物が何もないということ、お会いする方すべて、なるほど大変なことなんだと。また、吉野市の地図も見せました。そういうことで、これにつ

ては強く要望して、国の方におかれましては、そういう危機意識を持っていただいたものというふうに感じて帰ってきたところでございます。以上です。

○山本議員

全員が危機意識を持つというところでございます。今後やはり判断をするのが、企業であったとしても、住民の方々、隣接の方々がかかりと安心・安全を確認するために、やはり再稼働に向けて住民全員が合意形成、そういうシステムをつくっていくことも必要だと思っております。最後に福岡県はどのような認識でいらしたか、そのことがおわかりであれば、知事の方からご答弁をお願いします。

○知事

これまでも申し上げてまいりましたように、仮に30キロ圏内となりますと、福岡県域もこの範囲に入ってくるわけでありまして、これから具体的な「地域防災計画」の見直し等を進めてまいります。佐賀県、福岡県、長崎県3県共通の課題を抱えながら連携して取り組んでいこうというところで、意思決定を行っております。

※EPZ・・・防災対策重点地域のこと、原発事故が起きた時に備えて、自治体などがあらかじめ、住民の避難などの対策を決めておく地域のこと。国の原子力防災指針では原発から半径8～10kmが基準になっている。この範囲に入れば、国から原子力施設の事故に備えた対策や放射線量を監視するための交付金を受けられる。



離島は観光の分野、交流人口の増についても非常に魅力的な素材を持つ

平成23年長崎県議会6月定例会 7月5日、前田議員の地域活性化への取り組みに関連し、県の観光施策における離島の意義として5分間の関連質問を知事に行いました。

関連質問

○山本県議

自由民主党・清風会、杵岐市選出の山本啓介です。

同僚の前田議員の地域活性化への取組に関連して、質問をさせていただきます。

今、地域活性化への取組について議論が行われました。その議論の中で、上海航路を含む、長崎市を中心とした観光についても含みますが、すべて特化してお話をされておりましたのでしようがないというふうに思っておりますが、やはり離島、この長崎県下においては、離島というものは非常に観光の分野においても、また、交流人口の増についても、非常に魅力的な素材を持っていると思っております。

私の出身の杵岐市におきましては、昭和55年から多くの教育旅行、修学旅行の受け入れをしており、平成22年度までに大体850校、そして、延べ16万人に近い生徒の方々が教育旅行の場として、体験学習等々のために来島されております。

杵岐市にとどまらず、長崎県には非常に魅力的な離島が多くありますが、今後の交流人口増対策に向けて、離島の役割、または様々な長崎県の観光施策において、離島の意義、そういったものについて知事のご認識をお伺いしたいと思えます。

○知事

今、離島地域においては、特に人口流出になかなか歯止めがかからないという厳しい状況ですが、そういった中で、やはりこれからは交流人口をいかに拡大していくかというのが非常に大きな視点になってくるものと考えます。

ご承知のとおり、県土に対して離島は4割で、人口面で

いくと1割という非常に厳しい状況に直面していますけれども、ただ、今の離島の現状を考えます時に、離島にはそれぞれの歴史・文化があり、魅力があると考えております。杵岐には原の辻がありますし、対馬は韓国との交流の舞台になっております。五島は遣唐使、あるいはキリシタン文化とのかかわりがあると。そういった様々な魅力をこれから有効に活用しながら、体験観光等を開発して、交流人口の拡大に結びつけていく必要があるものと考えております。そして、県におきましてもそうした取組を支援していきたいと考えております。

○山本県議

今、ほかのところからも声がありましたとおり、杵岐は麦焼酎発祥の地で、焼酎等々も古くから地に足をつけて、しっかりとやっている産業もございます。

そういった産業を観光へ利用することも含めて、先ほど知事の方から、地域が底力を磨く必要があるというふうなお話もございましたので、今後、各地域、離島にある魅力の一つひとつ集めて、それをまとめて長崎県の魅力として売っていくという流れで、ぜひとも県としてもその素材を磨く作業をしっかりとしたいと思っております。

ただいま取り組んでいらっしゃるこの「来てみんな！長崎食KING王国」は、非常に地域の食文化に特化したものであります。地域の魅力を一つひとつ取り上げて、それを長崎県の力として売り出している非常に素晴らしい企画であると思っております。

その出だしは、県が企画をしっかりと作られて、それを地域に落とし、地域とのやり

とりの中で始まっているというふうな認識をしていますが、様々なこのような取組が、ある中で、やはり人口の部分で、まだまだ県の方からこれをしてようと思った時、地域には温度差があるところがあるのかもしれないですね。

また、地域の中のいろいろな組織や絡みもあると思います。やはり早くから企画を作ってしまう前に、地域との打合せ、または知事が行われている「青空知事室」等々によって、いろいろな意見を集めた上で今後も取り組んでいただきたいと思えます。

そして、離島においては、そういった意見交換、情報の収集等々を常日頃から行っていた方がいいような、そういった仕組みづくりもお願いしたいと思えますが、そのあたりのお考えをいただきたいと思えます。

○知事

やはり地域がそれぞれの魅力を高めるためには、そこに暮らしている住民の方々が地域づくりに一生懸命取り組んでいただく、そして、地域の中で生き活きと暮らしている、そういうことを外から来たお客様にしっかりと紹介する必要があると。

がんばらば地域づくり推進事業等についてもしっかりと取り組んでいきたいと思っております。

皆様のご要望を受け付けています

FAX

45-4059

E-mail

hozankai2011@cream.plala.or.jp